

Initiative for Life Design Innovation International Symposium

ライフデザイン・ イノベーション研究拠点 国際シンポジウム

日時 2019/11/1 (Fri)
14:00~19:00

会場 グランキューブ大阪
12階 特別会議場(定員250名)

「ライフデザイン・イノベーション研究拠点(Initiative for Life Design Innovation: iLDi)」では、人々の医療・健康情報であるパーソナル・ヘルス・レコード(Personal Health Records: PHR)情報に、日常生活、職場/学校での活動、食事、スポーツ活動などの様々な日常活動データを加えた、パーソナル・ライフ・レコード(Personal Life Records: PLR)情報を新たに提案致しました。

心と体の健康増進やQOLの向上、学びや楽しみの実現に役立つような高付加価値を持つPLRの構築を目標に、より一層、豊かな社会生活の実現に向けて全力を挙げて邁進致します。本シンポジウムでは本研究拠点の活動をご紹介とともに、最先端分野の講演者をお招きし、Society 5.0がめざす未来社会について考えます。

 関西国際空港から

- ・JR「大阪駅」まで約55分。
- ・空港リムジンバスで「大阪駅」まで約60分。

 大阪国際空港(伊丹)から

- ・空港リムジンバスで「大阪駅」まで約30分。

 新幹線(新大阪駅)から

- ・JR在来線で「大阪駅」まで約5分。

 電車

- ・京阪電車中之島線「中之島(大阪国際会議場)駅」(2番出口)すぐ
- ・JR大阪環状線「福島駅」から徒歩約15分
- ・JR東西線「新福島駅」(3番出口)から徒歩約10分
- ・阪神本線「福島駅」(3番出口)から徒歩約10分
- ・大阪メトロ「阿波座駅」(中央線1号出口・千日前線9号出口)から徒歩約15分

 バス

- ・JR「大阪駅」駅前バスターミナルから、大阪シティバス(53系統 船津橋行)または(55系統 鶴町四丁目行)で約15分、「堂島大橋」バス停下車すぐ
-大阪駅前バス乗り場の案内
-大阪シティバス53番系統
-大阪シティバス55番系統
- ・シャトルバスが、「リーガロイヤルホテル」とJR「大阪駅」桜橋口の間で運行されており、ご利用いただけます(定員28名)
- ・中之島ループバス「ふらら」で地下鉄・京阪「淀屋橋駅」(4番出口・住友ビル前)から約15分

 グランキューブ大阪(大阪国際会議場)
Osaka International Convention Center
<https://www.gco.co.jp/ao002/>



主催 ライフデザイン・イノベーション研究拠点

共催 株式会社 大阪国際会議場 / 後援 大阪府、大阪市、株式会社日本経済新聞社

14:00～ ポスター発表（前半）

14:30～ 主催挨拶 西尾 章治郎（大阪大学総長） 松本 紘（理化学研究所理事長）

来賓挨拶 文部科学省

14:45～ 基調講演 1

Insup Lee 教授 (University of Pennsylvania)

演題：Internet of Medical Things and Computing for Health：
～Challenges, Trends, and Opportunities～（医療分野のIoTと
健康分野のコンピューティング技術）

15:25～ 基調講演 2

Rosemary Luckin 教授 (University College London)

演題：An Intelligence Infrastructure of Lifelong Learning AI
（自律学習 AI の知能インフラストラクチャ）

16:20～ iLDi 研究拠点全体紹介 八木 康史 (iLDi 拠点本部長 大阪大学 教授)

16:40～ iLDi 研究拠点プログラム紹介

18:10～ ポスター発表（後半）



Insup Lee 教授

講演者紹介：アメリカペンシルベニア大学 計算機科学分野教授。サイバー・フィジカル・システム、リアルタイム・システム、組み込みシステム、医療分野のIoT、スマート&コネクテッド・ヘルス、システムの安全性・自律性・ランタイム検証などの研究に従事。近年は、生活に不可欠な社会システムの安全性やセキュリティ、有効性などに関する研究も行っている。



Rosemary Luckin 教授

講演者紹介：英国 ロンドン大学 学習科学理論分野 教授。学習科学の理論と人工知能の技術を用いた教育技術の設計と評価に関する研究に従事。近年は、教育と学習を支援するためのAI やその活用法の研究、AI を教育に利用することのメリット・デメリット、将来 AI がさらに普及した際の教育法や学習理論などに関する研究も行っている。

